

週 報



ロータリーは
機会の扉を開く



「変化への対応そして創造」

例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南

住所 日南市園田 3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX 0987-22-9588

会長 村岡俊宏

ロータリー財団月間

第 3255 回例会	No.12	2020. 11. 11	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12 時 30 分	「国歌」	「奉仕の理想」
ロータリーの目的	石灘寛樹 君		
例会行事	結婚・誕生者卓話		

会長時間

早いものでもう 11 月になりました。11 月 1 日は、『本格焼酎の日』でした。8 月のお盆過ぎに収穫したサツマイモから醸した新焼酎がちょうど仕上がることから名付けられたものです。普段、何気なく飲んでいる『いもしょうちゅう』ですがルーツをたどると意外と面白いことが垣間見られます。

さて、『サツマイモ』は、どこから来たのでしょうか？原産地は、メキシコを中心とする熱帯アメリカです。紀元前 800～1000 年ごろ中央アンデス地方で栽培されていました。大航海時代コロンブスによってヨーロッパに渡ったのが 15 世紀ごろだそうです。ヨーロッパでは涼しすぎて、あまり栽培されなかったそうです。それが、スペイン人やポルトガル人が植民地を求めてアジアに来るようになり、彼らが持ち込んで広がっていったみたいです。日本では、1600 年ごろ中国から琉球に伝わり、薩摩に伝わったことで『サツマイモ』というよびかたをしています。また、中国から伝わったということで、『唐芋』とも呼ばれています。

鹿児島島のシラス台地が栽培によく合っていたのか、高温多雨の南九州の風土に合っていたのか、瞬く間に広がっていきました。サツマイモを田に植えたら葉ばかり茂って芋が育たなかったときいています。田に栄養があり過ぎたようです。

さて『サツマイモ』があっても焼酎は出来ません。サツマイモの原産地中南米『メキシコ』は、【テキーラ】の本場です。テキーラの原料は、「リュウゼツラン（龍舌蘭）」です。日南海岸線沿いに植えてあります。これの根を掘り出して、砕いて醸して、蒸留して造られたのが【テキーラ】です。造り方は、いも焼酎とほとんど同じです。私はたまたまテレビを見ていて知ったのですが、驚きました。

それから、蒸留技術は、アメリカに渡り、アラスカからユーラシアに伝わり東南アジアか中国から琉球に伝わり、奄美、そして薩摩に伝わったと言っていました。このルートは「シルクロード」に重ねられると思います。シルクロードの最終地は琉球です。色々説があるようですが、アメリカでともしを原料に「バーボンウイスキー」、ロシアで「ウォッカ」、ヨーロッパでは、「ウイスキー、ジン」と蒸留酒が作られてきました。それから琉球で「泡盛」、奄美で「黒糖焼酎」、そして「いも焼酎」と流れが見えてきます。元をたどれば、すべてが中南米です。でもこういう歴史を考えているだけでも楽しくなるのは私だけではないと思えます。

江戸時代、享保、天明、天保の飢饉が続いたとき、サツマイモがあった薩摩藩では餓死者がいなかったことは有名な話です。このサツマイモと一緒に薩摩に入ってきたのが、「鉄砲」です。この鉄砲の火縄の火をつけるのに役立ったのが芋から作った「いも焼酎」です。琉球では、米から造った「泡盛」をつかっていましたが、薩摩では、平地が少なく米は貴重品でその代替えからサツマイモからアルコールを求めたと聞いています。サツマイモはシラス台地でも多く収穫できたので、大変都合の良いものだったのでしょうか。

「ジン・ウォッカ・テキーラ」など穀物や果実の醸造酒を加熱し、蒸発した成分を取り出す『蒸留』という工程を経て造るお酒のことを（スピリッツ）といいます。英語の「SPIRITS」には、「魂、霊、精神」の意味がありますが、蒸留酒は、「生命、精気を帯びた物質」としてとらえられました。そして、スピリッツと呼ばれるようになったそうです。

このように同じ蒸留酒として『いも焼酎』は歴史的にみても大変意義のある飲み物と思われます。たかが「し

ようちゅう」と思われますが、されど「しょうちゅう」あなどるべからずです。

今夜、晩酌の時、先人たちがどのような思いで「しょうちゅう」を飲んでいたのでろうかと、考えながらしょうちゅうをかたむけるともっとワクワクしてくるかもしれません。

委員会報告

青少年奉仕委員会 第50回日南市少年野球大会開催の案内。11/14 東光寺球場にて13時開会式 11/21.22 試合

親睦委員会 結婚 築瀬敦君 (1994) 井野畑善順君 (1979) 峰松俊夫君 (1994) 土屋昭次君 (1972) 鷹衛哲郎君 (1994)

誕生 鬼東忠男君 (1950) 宮田真一郎君 (1960) 日高章太郎君 (1952) 古澤昌子君 (1966) 村社浩二君 (1969)

スマイル

宮田真一郎君 11/7の茜会コンペにおいて、人生二度目のホールインワンを達成する事が出来ました。

竹井崇利君 10/22に三人目の孫が生まれました。元気に育ってくれることを祈ります。

井野畑善順君 10/28の観月祭にはたくさんのご出席有難うございました。楽しんで頂けましたでしょうか？次回は忘年会です。お楽しみに！

入中英雄君 先日放送されたUMKの「よかぼん」に出演しました。「ひなたの真ん中で」という歌を建築士会のメンバーと歌いましたソロパートがなく皆様に美声をお聞かせできず残念です。

例会行事

結婚・誕生者卓話

鬼東忠男君 (誕生)



11月8日(日)・70歳になりました。「古希」ということです。呼び名は、唐の時代の中国で詩人、杜甫(とほ)によって詠まれた「曲江(きょっこう)」という。漢詩の一節からきています。その詩では「酒債は尋常行く処に有り人生七十古来稀なり」と詠われています。

どうゆうことか、「酒代の付けは私が普通行く所には、どこにもあるしかし、七十年生きる人は古くから稀であるということです。人生100年時代になりました。後30年あり

ます。すべてに頑張っていきます。

再攀高峰 「再び高き峰へ登らん」

徳川家康 「人の一生は重荷を負ふて、遠き道を行くが如し、急ぐべからず」

宮田真一郎君 (誕生)



本日は、誕生日のお祝いをいただきましてありがとうございます。自分では、まったく実感が無いのですが還暦を迎えました。お祝いをしていただいたりすると、段々と実感がわいてくるのかと思っておるところでございます。

還暦を迎える直前であり、先週の土曜日に開催されました茜会に起きまして、皆様からの贈り物とでもいいでしょうか、人生2度目のホールインワンを達成いたしました。当日は、降り続いておりました雨も上がり、曇り時々晴れという天候でした。私は2組目で、わたし、山口さん、富田さん、守永さんのパーティーでした。最初は、ダボとか、トリプルとかで調子悪いなあと思いながらプレイしておりましたが、徐々によくなりパー、ボギーであるようになってきた、アウトの8番179ヤードのショートホールでした。長く難しいホールで、グリーン近くに行けばいいなと思いながらユーティリティークラブの5番で打ったところ、なんと会心の当たりグリーンへまっすぐ飛んでいきましたが、奥にこぼれたように感じました。その時、山口さんが入ったんじゃないか、ボールが消えたよと。私は、まさかと思いながら、カートで、グリーンに向かいました。奥のバンカーにも、ラフにも無い、ましてグリーン上にも無い。まさかと思いホールを覗き込むと。なんと、キャロウェイ。私のボールが、そこにあるではないですか、驚くやら、ドキドキするやらでどうしたらいいかわかりませんでした。その後残りの9番ホール、そしてインの9ホールは、足元がふわふわして、やっと、クラブハウスまでたどり着いたという感じでした。しかし、終わってみると、優勝までさせていただき、思い出に残るコンペとなりました。ありがとうございました。お礼の印といたしまして、茜会に寄付をさせていただきます。次回のコンペの商品購入にお役立ていただければと思います。



鷹衛哲郎君（結婚）

私の結婚記念日は平成6年11月1日でこの日は奇しくも妻の誕生日でありまして、その日に入籍をいたしました。今年で26年目の記念日を迎えますがお互い還暦を過ぎまして体型や体の各所の弛みや皺など年を追うごとに老いを感じ始めているところであり、戻れるものならもう一度、あの頃に戻りたいなあと思う今日この頃であります。

又、あ～いたいよ～とか、どっこいしょ、或いは、あ～だれた～、と言う言葉が日常茶飯事に出てくるようになり困ったものだと思っております。

26年間妻に対して改まって感謝の言葉や気持ちを伝えた事は無いのですが強いて言えば日南信用金庫を南郷信用金庫へ事業譲渡するまでの11年4ヶ月間が自分の人生で1番苦しく辛く長い日々であったと思っております。この苦難を乗り越えられたのも妻や子供たちの存在があったからこそと感謝しております。

今後の夫婦生活に対する抱負としましては、月並みな言葉ではありますが「共に白髪が生えるまで」夫婦仲睦まじく共に人生のゴールインを迎える日まで、リタイア後の余生を存分に楽しみ、お互いに良い人生であったと思えるようにしたいと思っております。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
今週	36	4	32	24	4	4	28	87.50%
出席免除	村上、清水、古澤、土屋							
先取MU	石崎、榎木田、菊池、村社							
欠席	片桐、峰松、上村、永田							

事務局〒887-0014 日南市岩崎3-4-2 Itten 堀川ビル2F 創客創人センター内 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：村岡俊宏 副会長：豊田裕康 幹事：黒岩久登 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jpまで送信してください。